

備前市事務事業評価表

(平成17年度事業)

事務事業名	し尿処理施設維持管理事業(備前)		コード	01-01-15-01	担当課	環境課 衛生係
事業実施期間	昭和46年度～		担当者	馬場敬士		
総合計画事業(政策)体系	大項目	安全で快適に暮らせるまちづくり	電話	64-1821		
	中項目	生活しやすいまちづくり				
	小項目	し尿処理				
	施策	し尿処理施設の検討				

事業について	
目的	し尿を効率的に処理することにより、生活環境の保全につなげる。
対象(誰のために)	市内のし尿・浄化槽の汚泥処理が必要な市民・市内事業者
内容	許可業者によるし尿の収集運搬の指示。 適正かつ効率的にし尿の処理を行うために施設の維持管理を行う。

事業の結果	17年度					
実施項目	回数など(単位)		回数など(単位)		回数など(単位)	
し尿処理量	6,661 kl					
浄化槽汚泥処理量	7,165 kl					
事業費(単位:千円)	直接事業費	67,808	国県補助金等		直接事業費	
	人件費	35,280	受益者負担		人件費	
			市債			
	合計	103,088	一般財源等	103,088	合計	0
必要人員	4.70 人					
結果指標①	結果指標名	し尿処理量				
	結果指標量	6,661				
	単位	kl				
	対前年比	—				0.00%
	事業費	49,665,064 円				円
単位当たりコスト①	7,456 円				円	
結果指標②	結果指標名	浄化槽汚泥処理量				
	結果指標量	7,165				
	単位	kl				
	対前年比	—				0.00%
	事業費	53,422,936 円				円
単位当たりコスト②	7,456 円				円	

事業の成果			
成果指標名	し尿・汚泥処理量	式又は説明	し尿処理量+汚泥処理量
成果指標量	17年度		
対前年比	13,826		
到達目標値	—	0.00%	
	13,100	到達目標年度	平成27年度

事務事業の評価		課題認識
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	関係法令等に基づき許可業者による効率的な収集と適正で効率的なし尿処理を行っているが、下水道整備が進んでいくにつれし尿・浄化槽汚泥の収集・処理量は減少する。 なお、下水道の整備等に伴う一般廃棄物処理業等の合理化に関する特別措置法により、し尿収集業者の代替業務を考える必要がある。
	対象の妥当性	
	市民ニーズの妥当性	
効率性の評価	コストの効率化	し尿処理負担金により、平成16年度までは、東備水道企業団(衛生センター)がし尿処理を行っていた。しかし、合併により平成17年3月22日から東備水道企業団はなくなり衛生センターは環境課の直営となる。運営形態が変更になったことにより、事業費、人件費ともに変更となる。
	手段の最適化	
	職場の効率化	
有効性の評価	目的達成度	下水道整備が進んで行くにつれて、し尿・浄化槽汚泥の処理量は減少するが、事業を継続する必要がある。
	成果向上の可能性	
	市民参画度	

総合評価		評価区分
コメント	下水道整備が進んで行くにつれて、し尿・浄化槽汚泥の収集・処理量は減少するため事業の縮小が必要であるが、しかし、下水道の整備等に伴う一般廃棄物処理業等の合理化に関する特別措置法により、し尿収集業者の代替業務を考える必要がある。	<A~E>
		C

今後の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する <input type="checkbox"/> 完了・統合	
翌年度	結果指標量① 6,350	結果指標量② 6,800
目標値	成果指標量 13,650	

改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
妥当性			
効率性	し尿収集予定のPR方法改善	H18	問い合わせの減少
有効性			

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。